

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年3月2日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4672100189
法人名	株式会社 一幸
事業所名	グループホーム みどりの郷
所在地	鹿児島県南九州市穎娃町上別府4627番地 (電話) 0993-28-2250
自己評価作成日	平成28年1月25日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成28年2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は、利用者様が住みなれた環境で、グループホームでの生活に生きがいを感じ、気ままに生活していただけるような環境作りに努めている。施設内に畑があり一緒に野菜を作り、成長や収穫する楽しみを利用者様、職員と一緒に感じている。また、収穫した野菜などを、食事にも使用し収穫の喜びを感じている。隣接する小規模多機能型居宅介護支援事業所や他事業所(サービス付き高齢者住宅)と交流を密に図り、利用者様や職員の交流の場を作っている。年に2回本社でこおり De マーケットがあり、利用者様の交流や地域活性化、地域の交流を目的に開催し、利用者様も買い物や、出し物の見学、舞台発表への参加など積極的に参加し、当施設だけではなく、全事業所が地域から慕われる施設になるよう活動をおこなっている。また自治会の活動にも参加し、施設前にある、公園の清掃活動にも、利用者様、職員と参加している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・南九州市穎娃町の緑豊かな自然の中、近隣には郵便局や小・中学校、商店があり、幹線道路に近く利便性のよい位置にホームがある。隣家に小規模多機能施設を配し、運営推進会議、避難訓練や行事を通じて日常的に交流がある。当ホームは、別地域で介護保険サービスを運営しており、年2回開催される「こおりDeマーケット」を通じて広く地域住民と交流し、年々フリーマーケットの規模は拡大している。
- ・地域とは、ゲートボールの見学を通じて交流したり、清掃活動へ参加、ホームの行事へお誘いしたり、小学校の運動会に参加したりと日常的に相互の交流がある。また、自治会長や民生委員との協力関係も良好で定例化された運営推進会議にも参加をもらっている。
- ・職員は、理念に掲げる「心」で聴く姿勢を大切にしている。また、経営理念である「共育」「共生」「共創」を基本に日々の暮らしを送る上での目標と定め利用者が地域と日常的にふれあい自分らしく生活ができるよう取り組んでいる。理念は、2年前に見直しされている。
- ・管理者は、職員が相談や提案などの意見を出しやすい雰囲気や体制作りに力を入れ情報を共有するためのシートの開発や職員教育にも熱心に取り組んでいる。必要に応じて個人面談も実施して出された意見はケアに活かしたり業務の改善につなげている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	法人の経営理念を基本に職員と話し合った施設理念の下、職員、利用者様が地域との関わりの中で、自然に生活が出来るよう取り組んでいる。	経営理念は、朝礼で唱和されている。情報共有シートは色分けされシフトごとに職員が気づきを記録するようにしている。理念は2年前に見直しされており心で聴く姿勢を大切にしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の清掃活動に職員、利用者様と参加している。防災訓練等の行事も地域の方にも参加していただいている。活動の中で地域との交流に努めている。	一つの幸せを地域とともに共有したいというホームの思いから、地域との付き合いを大切にしている。公園の清掃活動、災害訓練、夏祭りなどの行事へ参加、保育園児、サマーボランティアを受入れ交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	本社にてこおり Deマーケットを開催し、地域との交流や地域活性の目的のもと開催している。また、どら介護を語る会という勉強会を開催し、地域の方に介護を知っていただくきっかけの場を作っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の自治会長・民生委員・行政・家族代表・地域住民の方に参加していただき、活動状況の報告や、参加者の意見交換の場となっている。	家族代表は、1年交代で各ユニットごとに参加している。ホーム主催の徘徊模擬訓練は、地域やメンバーの協力をもらい実施された。管理者は、今後も地域との関わりを深める工夫を検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の窓口に行った際は、相談や手続きのどを行い、顔の見える関係作りに努めている。また、運営推進会議にも参加していただき、日々の活動報告や、相談などおこなっている。	市担当者とは、支所で面談したり、電話でやりとりしているが、最近は、メールが多い。市主催の勉強会の誘い、地区の同業者や異業種合同の研修会にも参加するようにしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、勉強会の年間計画にもあり、職員全員で身体拘束をおこなわない方針でケアに取り組んでいる。	年1回は内部研修で身体拘束の弊害について自己研鑽している。鍵をかけた自由な暮らしを実践しており、ふいに外出される方には、さりげなく付き添い散歩などして気持ちが安らぐようケアしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社全体での勉強会で、全職員で正しく理解するよう努めている。日々のケアの中で利用者様の精神的・身体的な阻害になるような事がないか検討している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会の参加や勉強会などを通して学習に努めている。日常生活自立支援事業を利用されておられる方もいるので、その都度権利擁護に関する制度について学習している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、重要事項説明等は詳細に説明を行い、利用者・家族等の納得を得られた上で、契約を結んでいる。入所後も利用者・家族からの要望及び改善等で必要と思われた時には随時、文章等にて説明を行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、ご家族からの意見や要望は運営推進会議やたより等で報告し、改善に向け話し合っている。またご家族が面会時に意見や要望等ないかこまめに聞くように努めている。	利用者には、日々の暮らしの中で意見や要望が出せるようコミュニケーション活動に努めているが、家族は、電話やメールなどの通信方法や運営推進会議を通じて意見などを頂いている。法人全体で共有すべき案件については、定期通信に載せて情報を共有するよう図っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼等で意見交換をおこなっている。また必要に応じて個人面談も行い、意見や提案を聞く機会を設けている。	人事考課システムがあり、半年に1回自己評価し、必要に応じて管理者が個人面談をしている。伝達シートを活用し、意見や提案を聞く機会を設けており、出された意見をケアやサービスの向上に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は定期的に事業所を訪問し、職員の努力や能力、勤務状態の把握に努めている。スキルアップのための研修の参加の機会を提供したり、給与等のも配慮をおこなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所外で行なわれる研修会には、職員が交互に参加し、全職員の意欲や能力に応じて研修を受ける機会の確保に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他施設への見学や交流会への参加を通じ、サービスの向上に努めている。また、他施設の他施設研修の受け入れなど行い、職員の交流も図れている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用開始前に、家庭や病院などを訪問、ご本人に面談し、生活環境や身体状況、生活状態等の把握に努め、信頼関係作りに努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族や、相談に来られた方の困っている事や不安な事などについて、相談や申し込みの際などに伺い、利用に対する不安等なく利用できるように努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談をうけた際、本人や家族の状態を把握し、利用できる他のサービスの紹介など、その時に出来る限りの支援を行っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>昔ながらの習慣や習わし、農作業や料理の味付けなどを教えていただいたり、意見を参考にしている。また、歌を教えて頂いたり、田舎言葉を教えて頂いたりしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や面会に来られた際、日常生活の様子などの情報を家族と共有し、電話をかけたたりしながら一緒に支えていく関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会が出来る体制を整えている。また、他事業所との交流や、イベント等で、馴染みの方や友人などの交流が出来るよう活動をおこなっている。	近所に居住する知人や家族、親戚の方の面会があり、ホームから電話をかけることもある。電話の取次ぎ、手紙などの代読を支援したり、イベントに外出し地域の方とも交流し関係性が途切れないようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、職員は情報を共有している。情報をもとに、食事の席順や入浴の順番などに配慮している。また状況により職員が間に入りコミュニケーションが円滑に行なえるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居先や家族への詳しい情報提供を行なうとともに、サービス利用後も面会やお見舞い等により、関係性の継続に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、表現、言動などを感じて、声掛けやレクリエーション等により意思疎通を図り、定期的にあセスメントを行なっている。また、ご家族に思い・確認シートを記入して頂き、意向や思いを確認している。	確認・思いシートを活用し、利用者や家族の思いや希望を汲み取り職員間で共有するよう努めている。結果的にアセスメントは職員全員で実施していることになり、本人の思いに寄り添い、本人本位に暮らせるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や面会時などに、ご家族から今までの生活歴の聴き取りを行なうとともに、本人の日頃の会話からも情報を得るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の生活の中で、本人の出来る事、出来ない事を把握し、情報の共有に努め、一人一人の生活のリズムを尊重し支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	情報共有シートや気づきシートを活用し介護計画等に反映させている。また、医療機関の主治医や看護師からも意見を頂き反映させるようにしている。	情報共有シート、気づきシートを活用し、モニタリングを実施し本人が今どうしたいか、どう暮らしたいかなどを職員全員で検討するようになっている。また、介護計画は利用者主体の生活を反映した計画になっており、現状に即した計画になっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を用意し、日勤者、夜勤者が日々の様子を記録している。また、情報共有シートを活用しながら情報を共有し、日々のケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族などの状況や要望に応じて病院受診や自宅訪問等必要な支援を柔軟に対応している。また、近隣の医療機関と医療連携体制を結んでおり、看護師による健康管理をおこなっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の公園を利用している。この公園を自治会の方と一緒に草むしりをしたり、清掃活動もおこなっている。また、近隣の保育所とも交流し、運動会の見学や、子供達の慰問などに来て頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関を確保しており、受診は職員が同行し、日々の状態などを伝えている。また、その際主治医の先生や看護師よりアドバイスを頂いたり、相談をしている。また、歯科や往診対応の病院からは往診で対応して頂いている。	利用者や家族が希望するかかりつけ医となっており、外来受診や緊急時の受診は職員が対応しているが家族にも協力を依頼している。必要に応じて専門医を受診するなど適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日常的には、看護資格を持つ職員が中心になり健康管理に努めているとともに、協力医療機関の医師や看護師に健康面での相談を気軽に出来る関係作りに努めている。また、情報共有に努めている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院した際には、こまめに面会に行き、利用者の不安解消に努め、本人や家族の希望を聞きながら病院との連携を図っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合や終末期のあり方について、入居時や状態の変動があった時に、ご家族への説明を行ない、全員での支援の方針を共有している。</p>	<p>入所時に、重度化した場合について説明している。看取りの経験はないが、現時点は体制整っておらず家族からの依頼や相談もない。看取りの指針があり、看取り介護についての同意書、終末期性格支援に関する確認書などの文書は整備されている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>年に一度消防署に要請し、救急講習を受けている。また、普段から協力医療機関の看護師に相談、指導を頂いている。また26年よりAEDを設置、地域住民にも周知している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に通報訓練や避難訓練を行い、利用者を円滑に避難させられるよう努めている。また訓練等は地域住民の協力もあり、訓練にも参加していただいている。</p>	<p>年2回の避難訓練、自主訓練にて通報訓練を実施している。地域の方には避難訓練に参加してもらっている。AEDが設置しているため、実際に地域住民にもAEDを使用しての訓練を実施し避難訓練の際は、集落放送を流して地域に呼びかけている。備蓄は、各ユニットごとに水、食材などを完備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に応じた声かけやプライドやプライバシーを尊重した声かけや対応に配慮するように心がけている。	プライバシーについての研修は、朝礼でおこなうことが多い。失礼にならないよう配慮し、親しみをこめて呼びかけるなどしているが、言葉の使い方には十分に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションの参加や入浴の有無、食事形態など日常生活の中で利用者の希望や意見交換を表せる雰囲気作りを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や食事の時間など利用者が自分のペースで行えるよう柔軟な対応を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	その人らしさを大切にし、好みの服装が出来るよう、声かけや、配慮をしている。また髪型なども、本人、ご家族などの希望に合わせて施設に訪問理容に来て頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや食器洗いなど、利用者の力に応じた手伝いを頂くように心がけている。また、職員も同じ食事をとり、楽しい雰囲気作りを心がけている。	献立の作成は、栄養士の献立表をベースに職員が交代で作成している。能力に応じて食事の下ごしらえ、お膳拭きなどをされる方がいる。昨年は、外食の機会がなかったが、職員間で調理の勉強会を実施したり、地域の方から野菜の差し入れがあり、料理に活用している。職員は利用者と一緒に食卓を囲んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人一人の1日の大まかな食事・水分摂取量を把握している。また、基本の献立を栄養士に立てて頂き、状態に応じて、トロミを付けたり、食材の切り方を工夫するなど工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけを行い、利用者の状況に応じ、見守りや介助など支援をしている。また、本人、ご家族からの希望がある時は、歯科受診や往診のお願いなど、歯医者との連携も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、排泄パターンの把握に努めている。利用者の状況に合わせて、声かけや誘導を行い、失敗を少なくし、トイレでの排泄を出来るよう支援している。	排泄チェックでは、時系列に排泄のリズムを把握するよう努めており、タイミングを見てスムーズに排泄ができるよう配慮している。不潔行為がある方もおられたり、おむつ対応の方もおられるが、清潔保持のため更衣、清拭、入浴など柔軟におこない、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の工夫や体操などの適度な運動を通じて、自然な排便が行えるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴が楽しく、また気持ちよく入浴して頂けるよう、楽しい雰囲気に入れるよう支援している。一応の入浴日は決めてはあるが、希望があれば入れるよう支援している。	予め入浴日を決めているが、希望や必要に応じて入浴を支援している。異性介助に配慮するとともに、人工肛門ストーマのパウチの取り扱いにはプライバシーに配慮し慎重におこなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日光浴やレクリエーション、体操など日中の活動を通して生活リズム作りをしている。また休息したい時には、自由に休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人一人の薬の情報シート（薬情）を保管し、用法や副作用等について把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	農作業や家事の経験を一人一人活かせるように支援している。また季節ごとの行事を行い、外出する機会を作っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日は出来るだけ外での活動（苑外レク・日光浴）を出来るよう支援している。また、希望に応じて、買い物へ出かけたたり、散歩への支援をご家族の協力を頂きながら、行っている。	日常は、受診や市役所の帰りを利用して家族や職員と買い物を楽しんでいる。また、家族と食事や墓参りに出かける利用者もいる。ホームの菜園で農作業をされる方、シンボルの木陰で外気浴を楽しまれる方もいる。ホーム主催のフリーマーケットには、利用者のほぼ全員が外出し、地域の方々と交流している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人の能力や希望を家族と相談しながら、出来る限り本人に管理して頂いている。また、希望に応じて職員と一緒に買い物に行ったり、外出時に買い物をされたりしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人の希望に応じ家族へ電話をかけたり、はがきや手紙のやり取りができるよう努めている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホールは天井が高く開放感もあり、明るい日差しが気持ちよさしている。昔の音楽や、季節が感じられる飾り物などを飾っている。</p>	<p>吹き抜けの天井は解放感があり、採光がある広い空間である。代表者のこだわりの長テーブルがホールの中央に位置している。季節の生花が飾られ壁には、ちぎり絵、折り紙が展示されている。ソファ、畳部屋が設置されており、思い思いに過ごせるよう配慮されている。加湿器が設置しており、室温にも留意している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>玄関やホール、中庭などに、ソファやベンチがあり、畳の談話室なども一人で過ごせる空間となっている。また、他の利用者などとも過ごせる空間となっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>タオルケット、毛布など本人の使い慣れた物品を持ってきて頂いている。またぬいぐるみや家族、友人と撮った写真を飾るなどしている。</p>	<p>家族や利用者同士の集合写真、位牌、ぬいぐるみなど馴染みの物を持ち込み居心地よく工夫している。転倒防止のため、職員手作りのセンサーマットが配置された部屋もある。加湿器もあり、室温を調整するなど環境整備ができています。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>施設内には必要な所に手すりを設置し、段差もなくバリアフリーとなっている。また居室内のタンスやクローゼット、ベットなど本人・家族の希望がある場合は配置を換えるなど工夫している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない